



S/MIME セキュリティ サービス

この章は、次の項で構成されています。

- [S/MIME セキュリティ サービスの概要 \(1 ページ\)](#)
- [電子メールゲートウェイでの S/MIME セキュリティサービス \(2 ページ\)](#)
- [S/MIME を使用した発信メッセージの署名、暗号化、または署名と暗号化 \(5 ページ\)](#)
- [S/MIME を使用した着信メッセージの検証、復号、または復号と検証 \(18 ページ\)](#)
- [S/MIME 証明書の要件 \(24 ページ\)](#)
- [公開キーの管理 \(26 ページ\)](#)

S/MIME セキュリティ サービスの概要

Secure/Multipurpose Internet Mail Extensions (S/MIME) は、安全な検証済みの電子メールメッセージを送受信するための標準ベースの方式です。S/MIME では、公開/秘密キーのペアを使用してメッセージを暗号化または署名します。この方法により、

- メッセージが暗号化されている場合、メッセージ受信者のみが暗号化されたメッセージを開くことができます。
- メッセージが署名されている場合、メッセージ受信者は送信者のドメインのアイデンティティを検証して、転送中にメッセージが変更されていないことを確信できます。

S/MIME の詳細については、次の RFC を確認してください。

- RFC 5750 : Secure/Multipurpose Internet Mail Extensions (S/MIME) Version 3.2 - Certificate Handling
- RFC 5751 : Secure/Multipurpose Internet Mail Extensions (S/MIME) Version 3.2 - Message Specification
- RFC 3369 : Cryptographic Message Syntax

電子メールゲートウェイでの S/MIME セキュリティサービス

組織では、すべてのエンドユーザが独自の証明書を所有していなくても、S/MIME を使用して安全に通信したいと考えています。このような組織に対して電子メールゲートウェイは、個々のユーザではなく組織を識別する証明書を使用して、ゲートウェイレベルで S/MIME セキュリティサービス（署名、暗号化、検証および復号）をサポートします。

電子メールゲートウェイは、Business-to-Business (B2B) および Business-to-Consumer (B2C) シナリオに次の S/MIME セキュリティサービスを提供します。

- S/MIME を使用したメッセージの署名、暗号化、または署名と暗号化 [S/MIME を使用した発信メッセージの署名、暗号化、または署名と暗号化 \(5 ページ\)](#) を参照してください。
- S/MIME を使用したメッセージの検証、復号、または復号と検証 [S/MIME を使用した着信メッセージの検証、復号、または復号と検証 \(18 ページ\)](#) を参照してください。

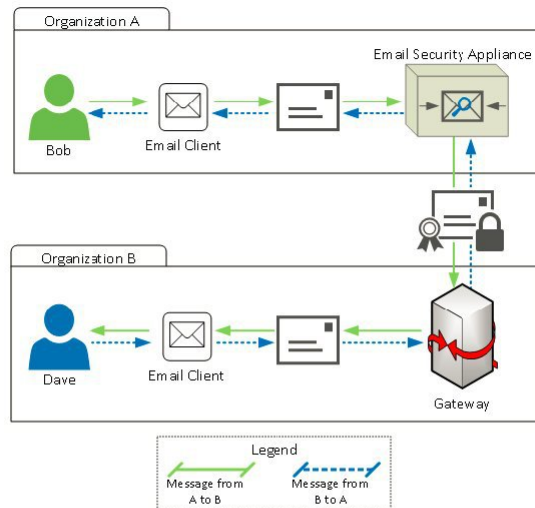
関連項目

- [S/MIME セキュリティ サービスのしくみについて \(2 ページ\)](#)

S/MIME セキュリティ サービスのしくみについて

- シナリオ : [Business-to-Business \(B2B\) \(3 ページ\)](#)
- シナリオ : [Business-to-Consumer \(4 ページ\)](#)

シナリオ : Business-to-Business (B2B)



企業 A と B は、両社の間でやり取りするすべてのメッセージを、S/MIME を使用して署名および暗号化したいと考えています。企業 A は、ゲートウェイレベルで S/MIME セキュリティ サービスを実行するように Cisco Secure Email Gateway を設定しています。企業 B は、ゲートウェイレベルで S/MIME セキュリティ サービスを実行するようにサードパーティ アプリケーションを設定しています。



(注) 現在の例では、企業 B はサードパーティ アプリケーションを使用して S/MIME セキュリティ サービスを実行していると仮定します。実際には、これはゲートウェイレベルで S/MIME セキュリティ サービスを実行できる任意のアプリケーションまたは電子メールゲートウェイ (Cisco Secure Email Gateway を含む) になります。

企業 A が企業 B にメッセージを送信 :

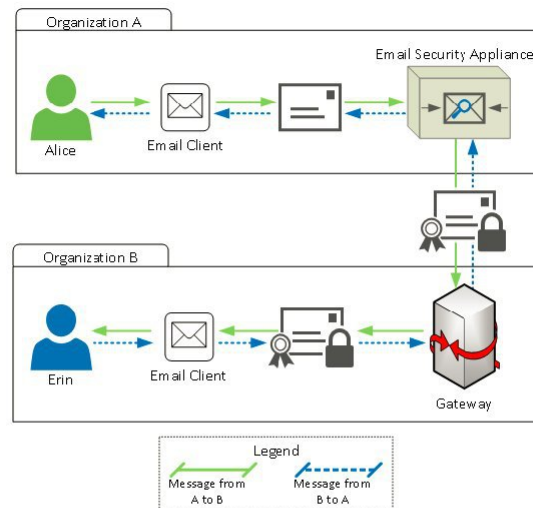
1. Bob (企業 A) は電子メール クライアントを使用して、未署名の暗号化されていないメッセージを Dave (企業 B) に送信します。
2. 企業 A の Cisco Secure Email Gateway は、メッセージを署名および暗号化して企業 B に送信します。

3. 企業Bのゲートウェイで、サードパーティアプリケーションはメッセージを復号および検証します。
4. Dave は暗号化されていない署名付きメッセージを受信します。

企業 B が企業 A にメッセージを送信 :

1. Dave (企業B) は電子メールクライアントを使用して、未署名の暗号化されていないメッセージを Bob (企業 A) に送信します。
2. 企業Bのゲートウェイで、サードパーティアプリケーションはメッセージを署名および暗号化して企業 A に送信します。
3. 企業 A の Cisco Secure Email Gateway は、メッセージを復号および検証します。
4. Bob は暗号化されていない署名付きメッセージを受信します。

シナリオ : Business-to-Consumer



企業 A と B は、両社の間でやり取りするすべてのメッセージを、S/MIME を使用して署名および暗号化したいと考えています。企業 A は、ゲートウェイレベルで S/MIME セキュリティ サービスを実行するように Cisco Secure Email Gateway を設定しています。企業 B は、すべてのユーザの電子メールクライアントを、S/MIME セキュリティ サービスを実行するように設定しています。

企業 A が企業 B にメッセージを送信 :

1. Alice (企業 A) は電子メールクライアントを使用して、未署名の暗号化されていないメッセージを Erin (企業 B) に送信します。
2. 企業 A の Secure Email Gateway は、メッセージを署名および暗号化して企業 B に送信します。
3. 企業 B の電子メールクライアントは、メッセージを復号および検証して Erin に表示します。

企業 B が企業 A にメッセージを送信 :

1. Erin (企業 B) は電子メールクライアントを使用し、メッセージを署名および暗号化して Alice (企業 A) に送信します。
2. 企業 A の Secure Email Gateway は、メッセージを復号および検証します。
3. Alice は暗号化されていない未署名のメッセージを受信します。

S/MIMEを使用した発信メッセージの署名、暗号化、または署名と暗号化

- [電子メールゲートウェイでの S/MIME 署名および暗号化ワークフロー \(5 ページ\)](#)
- [S/MIME を使用して発信メッセージの署名、暗号化、または署名と暗号化を行う方法 \(6 ページ\)](#)
- [S/MIME 署名用の証明書の設定 \(8 ページ\)](#)
- [S/MIME 暗号化用の公開キーの設定 \(10 ページ\)](#)
- [S/MIME 送信プロファイルの管理 \(13 ページ\)](#)
- [署名、暗号化、または署名と暗号化を行うメッセージの決定 \(16 ページ\)](#)
- [コンテンツフィルタを使用したメッセージの署名、暗号化、または署名と暗号化および即時配信 \(16 ページ\)](#)
- [コンテンツフィルタを使用した配信時のメッセージの署名、暗号化、または署名と暗号化 \(17 ページ\)](#)



(注) 電子メールゲートウェイを使用して、発信および着信メッセージの署名、暗号化、および署名と暗号化を行うことができます。

電子メールゲートウェイでの S/MIME 署名および暗号化ワークフロー

- [S/MIME 署名ワークフロー \(6 ページ\)](#)
- [S/MIME 暗号化ワークフロー \(6 ページ\)](#)

S/MIME 署名ワークフロー

次のプロセスでは、電子メールゲートウェイでS/MIME署名を実行する方法について説明します。

1. メッセージにハッシュアルゴリズムを適用して、メッセージダイジェストを作成します。
2. 電子メールゲートウェイの S/MIME 証明書の秘密キーを使用して、メッセージダイジェストを暗号化します。
3. 暗号化されたメッセージダイジェストおよび電子メールゲートウェイの S/MIME 証明書の公開キーを使用して、PKCS7 署名を作成します。
4. メッセージに PKCS7 署名を添付して、メッセージに署名します。
5. 署名されたメッセージを受信者に送信します。

S/MIME 暗号化ワークフロー

次のプロセスでは、電子メールゲートウェイでS/MIME暗号化を実行する方法について説明します。

1. 疑似乱数セッションキーを作成します。
2. セッションキーを使用してメッセージ本文を暗号化します。
3. 受信者（ゲートウェイまたはコンシューマ）の S/MIME 証明書の公開キーを使用して、セッションキーを暗号化します。
4. 暗号化されたセッションキーをメッセージに添付します。
5. 暗号化されたメッセージを受信者に送信します。



(注) 電子メールゲートウェイでPXE暗号化とS/MIME暗号化が有効になっている場合、まずS/MIMEを使用して、次にPXEを使用してメッセージが暗号化されます。

S/MIME を使用して発信メッセージの署名、暗号化、または署名と暗号化を行う方法

手順	操作内容	詳細
ステップ 1	S/MIME 証明書の要件を把握します。	S/MIME 証明書の要件 (24 ページ) を参照してください。

手順	操作内容	詳細
ステップ 2	要件に応じて、次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • S/MIME 署名の場合、S/MIME 署名証明書を設定します。 • S/MIME 暗号化の場合、受信者の S/MIME 証明書の公開キーを設定します。 • S/MIME 署名および暗号化の場合、S/MIME 署名証明書と受信者の S/MIME 証明書の公開キーをそれぞれ設定します。 	参照先： <ul style="list-style-type: none"> • S/MIME 署名用の証明書の設定 (8 ページ) • S/MIME 暗号化用の公開キーの設定 (10 ページ)
ステップ 3	メッセージの署名、暗号化、または署名と暗号化を行うためのプロファイルを作成します。	メッセージの署名、暗号化、または署名および暗号化用の S/MIME 送信プロファイルの作成 (13 ページ) を参照してください。
ステップ 4	電子メールゲートウェイでメッセージの署名、暗号化、または署名と暗号化を行うために、メッセージが満たすべき条件を定義します。	署名、暗号化、または署名と暗号化を行うメッセージの決定 (16 ページ) を参照してください。
ステップ 5	電子メールのワークフローでいつメッセージの署名、暗号化、または署名と暗号化を行うかを決定します。	参照先： <ul style="list-style-type: none"> • コンテンツフィルタを使用したメッセージの署名、暗号化、または署名と暗号化および即時配信 (16 ページ) • コンテンツフィルタを使用した配信時のメッセージの署名、暗号化、または署名と暗号化 (17 ページ)
ステップ 6	メッセージを署名または暗号化するユーザグループを定義します。	メールポリシーを作成します。 メールポリシー を参照してください
ステップ 7	定義した署名または暗号化アクションを、定義したユーザグループに関連付けます。	メールポリシーにコンテンツフィルタを関連付けます。 メールポリシー を参照してください



- (注) CLIを使用してS/MIME署名、暗号化、または署名と暗号化を実行する場合は、**smimeconfig** コマンドを使用します。『*CLI Reference Guide for AsyncOS for Cisco Secure Email Gateway*』を参照してください。

S/MIME 署名用の証明書の設定

メッセージに署名するためのS/MIME証明書を設定する必要があります。電子メールゲートウェイでは、次のいずれかの方法を使用してS/MIME署名証明書を設定できます。

- 電子メールゲートウェイを使用して自己署名S/MIME証明書を作成します。[自己署名S/MIME証明書の作成 \(8 ページ\)](#) を参照してください。
- 既存のS/MIME証明書を電子メールゲートウェイにインポートします。[S/MIME署名証明書のインポート \(10 ページ\)](#) を参照してください。



- (注) 署名されたメッセージを企業内のユーザに送信、またはテスト環境で送信するには、自己署名S/MIME証明書を使用することが推奨されます。署名されたメッセージを外部ユーザに送信、または実稼働環境で送信するには、信頼できるCAから取得した有効なS/MIME証明書を使用します。

S/MIMEの証明書要件については、[S/MIME証明書の要件 \(24 ページ\)](#) を参照してください。

自己署名S/MIME証明書の作成

Web インターフェイスまたはCLIを使用して、RFC 5750 (Secure/Multipurpose Internet Mail Extensions (S/MIME) Version 3.2 - Certificate Handling) に準拠する自己署名S/MIME証明書を生成できます。



- (注) 署名されたメッセージを企業内のユーザに送信、またはテスト環境で送信するには、自己署名S/MIME証明書を使用することが推奨されます。

手順

- ステップ 1** [ネットワーク (Network)] > [証明書 (Certificates)] をクリックします。
- ステップ 2** [証明書の追加 (Add Certificate)] をクリックします。
- ステップ 3** [自己署名S/MIME証明書の作成 (Create Self-Signed S/MIME Certificate)] を選択します。
- ステップ 4** 自己署名証明書に、次の情報を入力します。

Common Name	完全修飾ドメイン名
組織	組織の正確な正式名称。
組織単位	組織の部署名。
市（地名）	組織の本拠地がある都市。
州/県	組織の本拠地がある州、郡、または地方。
国（Country）	組織の本拠地がある 2 文字の ISO 国名コード。
失効までの期間	証明書が期限切れになるまでの日数。
サブジェクトの別名（ドメイン） （Subject Alternative Name （Domains））	このフィールドを設定した場合、指定したドメインのユーザは署名されたメッセージを送信できます。 署名されたメッセージの送信元のドメイン名。たとえば、 domain.com や *.domain.net などです。複数エントリの場合、カンマ区切りリストを使用します。
サブジェクトの別名（E メール） （Subject Alternative Name （Email））	このフィールドを設定した場合、指定したユーザのみが署名されたメッセージを送信できます。 署名されたメッセージを送信するユーザの電子メールアドレス（例： user@somedomain.com ）。複数エントリの場合、カンマ区切りリストを使用します。
秘密キー サイズ（Private Key Size）	証明書署名要求（CSR）を生成する秘密キーのサイズ。

（注） S/MIME 署名証明書には、サブジェクトの別名（ドメイン）とサブジェクトの別名（E メール）の両方を含めることができます。

ステップ 5 [次へ（Next）] をクリックして、証明書および署名情報を確認します。

ステップ 6 要件に応じて、次を実行します。

- [FQDN 検証（FQDN Validation）] チェックボックスをオンにすると、証明書に存在する [共通名（Common Name）] フィールド、[SAN : DNS 名（SAN: DNS Name）] フィールド、またはその両方が FQDN 形式であるかどうかを電子メールゲートウェイで確認できます。
- 証明書の名前を入力します。
- 自己署名証明書の CSR を認証局に送信する場合、[証明書署名要求をダウンロード（Download Certificate Signing Request）] をクリックしてローカルまたはネットワークマシンに PEM 形式で CSR を保存します。

ステップ 7 変更を送信し、保存します。

次のタスク



- (注) CLIを使用して自己署名 S/MIME 証明書を生成するには、**certconfig** コマンドを使用します。

S/MIME 署名証明書のインポート

メッセージに署名するための S/MIME 証明書がすでにある場合、インポートして電子メールゲートウェイに追加できます。

はじめる前に

インポートする S/MIME 証明書が、[S/MIME 証明書の要件 \(24 ページ\)](#) に記載されている要件を満たしていることを確認します。

手順

- ステップ 1 [ネットワーク (Network)]>[証明書 (Certificates)] をクリックします。
- ステップ 2 [証明書の追加 (Add Certificate)] をクリックします。
- ステップ 3 [証明書のインポート (Import Certificate)] を選択します。
- ステップ 4 ネットワーク上またはローカル マシンの証明書ファイルへのパスを入力します。
- ステップ 5 ファイルのパスフレーズを入力します。
- ステップ 6 [次へ (Next)] をクリックして証明書の情報を表示します。
- ステップ 7 (任意) **[FQDN 検証 (FQDN Validation)]** チェックボックスをオンにして、証明書にある [共通名 (Common Name)] フィールド、[SAN : DNS 名 (SAN: DNS Name)] フィールド、またはその両方が FQDN 形式であるかどうかを確認できるようにします。
- ステップ 8 証明書の名前を入力します。
- ステップ 9 変更を送信し、保存します。

次のタスク



- (注) CLIを使用して S/MIME 証明書をインポートするには、**certconfig** コマンドを使用します。

S/MIME 暗号化用の公開キーの設定

メッセージを暗号化するには、受信者の S/MIME 証明書の公開キーを電子メールゲートウェイに追加する必要があります。組織のポリシーおよびプロセスに応じて、次のいずれかの方法を使用して公開キーを電子メールゲートウェイに追加できます。

- 受信者に、電子メールなどの電子チャネルを使用して公開キーを送信するよう要求します。その後、Web インターフェイスまたは CLI を使用して公開キーを追加できます。公開キーを追加する手順については、[S/MIME 暗号化用の公開キーの追加 \(11 ページ\)](#) を参照してください。
- Web インターフェイスまたは CLI を使用して公開キーの収集をイネーブルにし、受信者に署名されたメッセージを送信するよう要求します。Eメールセキュリティ電子メールゲートウェイは、署名されたメッセージから公開キーを収集できます。署名された着信メッセージから公開キーを収集する方法については、[公開キーの収集 \(12 ページ\)](#) を参照してください。

S/MIME 暗号化用の公開キーの追加

はじめる前に

- 公開キーが[S/MIME 証明書の要件 \(24 ページ\)](#) に説明されている要件を満たしていることを確認します。
- 公開キーが PEM 形式であることを確認します。

手順

- ステップ 1** [メール ポリシー (Mail Policies)] > [公開キー (Public Keys)] をクリックします。
- ステップ 2** [公開キーを追加 (Add Public Key)] をクリックします。
- ステップ 3** 公開キーの名前を入力します。
- ステップ 4** 公開キーを入力します。
- ステップ 5** 変更を送信し、保存します。

次のタスク



(注) CLI を使用して公開キーを追加するには、`smimeconfig` コマンドを使用します。

S/MIME 収集済み公開キー

公開キーを着信 S/MIME 署名済みメッセージから取得 (収集) し、収集したキーを使用して暗号化済みメッセージを収集したキーの所有者 (ビジネスまたはコンシューマ) に送信するように、電子メールゲートウェイを設定できます。

公開キーの収集は、メール フロー ポリシーでイネーブルにできます。収集したすべての公開キーは、[S/MIME 収集済み公開キー (S/MIME Harvested Public Key)] ページに表示されます。

関連項目

- [公開キーの収集 \(12 ページ\)](#)

公開キーの収集

公開キーを着信 S/MIME 署名済みメッセージから取得（収集）し、これを使用して暗号化済みメッセージを収集したキーの所有者（ビジネスまたはコンシューマ）に送信するように、電子メールゲートウェイを設定できます。



(注) デフォルトでは、期限切れまたは自己署名 S/MIME 証明書の公開キーは収集されません。

はじめる前に

送信者の S/MIME 証明書の公開キーが、[S/MIME 証明書の要件 \(24 ページ\)](#) に説明されている要件を満たしていることを確認します。

手順

ステップ 1 [メール ポリシー (Mail Policies)] > [メール フロー ポリシー (Mail Flow Policies)] をクリックします。

ステップ 2 新しいメール フロー ポリシーを作成するか、既存のポリシーを変更します。

ステップ 3 [セキュリティサービス (Security Features)] セクションまでスクロールします。

ステップ 4 [S/MIME 公開キーの収集 (S/MIME Public Key Harvesting)] で以下を実行します。

- S/MIME 公開キーの収集をイネーブルにします。
- (任意) 署名された着信メッセージの検証に失敗した場合、公開キーを収集するかどうかを選択します。
- (任意) 更新された公開キーを収集するかどうかを選択します。

(注) 48 時間以内に同じドメインまたはメッセージから複数の更新された公開キーを受信すると、電子メールゲートウェイは警告アラートを送信します。

ステップ 5 変更を送信し、保存します。

次のタスク



(注) 電子メールゲートウェイ上の、収集された公開キーのリポジトリのサイズは 512 MB です。リポジトリが一杯になると、電子メールゲートウェイにより未使用の公開キーが自動的に削除されます。

CLI を使用してキーの収集をイネーブルにするには、**listenerconfig** コマンドを使用します。

次のステップ

署名されたメッセージを電子メールゲートウェイの管理者に送信するよう、受信者に要求します。電子メールゲートウェイは、署名されたメッセージから公開キーを収集し、[メールポリシー (Mail Policies)]>[収集済み公開キー (Harvested Public Keys)] ページに表示します。

関連項目

- [S/MIME 収集済み公開キー \(11 ページ\)](#)

S/MIME 送信プロファイルの管理

S/MIME 送信プロファイルでは、次のようなパラメータを定義できます。

- 署名、暗号化など、使用する S/MIME モード。
- 署名を行うための S/MIME 証明書
- 不透明、分離など、使用する S/MIME 署名モード。
- 受信者の S/MIME 証明書の公開キーを電子メールゲートウェイで利用できない場合に実行するアクション。

たとえば、ある組織に送信するメッセージはすべて署名済みである必要があり、別の組織に送信するメッセージはすべて署名済みかつ暗号化済みである必要があるとします。このシナリオでは、署名のみ、および署名および暗号化の2つの送信プロファイルを作成する必要があります。

Web インターフェイスまたは CLI を使用して、S/MIME 送信プロファイルを作成、編集、削除、インポート、エクスポート、および検索できます。

関連項目

- [メッセージの署名、暗号化、または署名および暗号化用の S/MIME 送信プロファイルの作成 \(13 ページ\)](#)
- [S/MIME 送信プロファイルの編集 \(15 ページ\)](#)

メッセージの署名、暗号化、または署名および暗号化用の S/MIME 送信プロファイルの作成

手順

-
- ステップ 1** [メール ポリシー (Mail Policies)]>[送信プロファイル (Sending Profiles)] をクリックします。
 - ステップ 2** [プロファイルを追加 (Add Profile)] をクリックします。
 - ステップ 3** 次のフィールドを設定します。

S/MIME プロファイル名	送信プロファイルの名前を入力します。
S/MIME モード (S/MIME Mode)	<p>S/MIME モードを選択します。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 署名 • 暗号化 • 署名/暗号化 (Sign/Encrypt)。署名してから暗号化します • 3 倍 (Triple)。署名、暗号化してから再度署名します <p>(注) [署名 (Sign)]、[署名/暗号化 (Sign/Encrypt)]または[3 倍 (Triple)]のいずれかの S/MIME モードを使用している場合、署名に失敗するとメッセージはバウンスされます。</p>
署名付き証明書 (Signing Certificate)	<p>使用する署名付き証明書を選択します。</p> <p>(注) このフィールドを設定する必要があるのは、[署名 (Sign)]、[署名/暗号化 (Sign/Encrypt)]または[3 倍 (Triple)]のいずれかの S/MIME モードを選択した場合のみです。</p>
S/MIME 署名モード (S/MIME Sign Mode)	<p>S/MIME 署名モードを選択します。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 不透明 (Opaque)。不透明署名メッセージでは、メッセージと署名が1番目の部分に結合されて含められ、署名を検証することのみ読み取ることができます。 • 分離 (Detached)。署名情報は、署名されるテキストと分離されます。この MIME タイプは2番目の部分に application/(x-)pkcs7-mime の MIME サブタイプを持つ multipart/signed です。 <p>(注) このフィールドを設定する必要があるのは、[署名 (Sign)]、[署名/暗号化 (Sign/Encrypt)]または[3 倍 (Triple)]のいずれかの S/MIME モードを選択した場合のみです。</p>

S/MIME プロファイル名	送信プロファイルの名前を入力します。
S/MIME アクション (S/MIME Action)	<p>受信者の公開キーを利用できない場合に 電子メールゲートウェイが実行する必要のあるアクションを選択します。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • バウンス (Bounce)。いずれかの受信者の公開キーを利用できない場合、メッセージは送信者にバウンスされます。 • ドロップ (Drop)。いずれかの受信者の公開キーを利用できない場合、メッセージはドロップされます。 • 分割 (Split)。メッセージが分割されます。公開キーを利用できない受信者へのメッセージは暗号化されずに配信され、公開キーを利用できる受信者へのメッセージは暗号化されて配信されます。 <p>例：bob@example1.com と dave@example2.com にメッセージを送信し、dave@example2.com の公開キーを利用できないとします。このシナリオで [分割 (Split)] を選択した場合、電子メールゲートウェイは次の処理を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • メッセージを暗号化してから bob@example1.com に配信します。 • メッセージを暗号化せずに dave@example2.com に配信します。 <p>(注) このフィールドを設定する必要があるのは、[暗号化 (Encrypt)]、[署名/暗号化 (Sign/Encrypt)] または [3 倍 (Triple)] のいずれかの S/MIME モードを選択した場合のみです。</p>

ステップ 4 変更を送信し、保存します。

次のタスク



(注) CLI を使用して送信プロファイルを作成するには、**smimeconfig** コマンドを使用します。

S/MIME 送信プロファイルの編集

手順

- ステップ 1 [メール ポリシー (Mail Policies)] > [送信プロファイル (Sending Profiles)] をクリックします。
- ステップ 2 変更する送信プロファイルをクリックします。
- ステップ 3 [メッセージの署名、暗号化、または署名および暗号化用の S/MIME 送信プロファイルの作成 \(13 ページ\)](#) に説明されているように、フィールドを編集します。

ステップ4 変更を送信し、保存します。

署名、暗号化、または署名と暗号化を行うメッセージの決定

送信プロファイルを作成したら、署名、暗号化、または署名と暗号化を行うメッセージを決定する発信コンテンツフィルタを作成する必要があります。コンテンツフィルタは、発信電子メールをスキャンしてメッセージが指定された条件に一致するか判断します。コンテンツフィルタによってメッセージが条件に一致すると判断されたら、電子メールゲートウェイはメッセージの署名、暗号化、または署名と暗号化を行います。

関連項目

- [コンテンツに基づくメッセージのフィルタリング方法](#)

コンテンツフィルタを使用したメッセージの署名、暗号化、または署名と暗号化および即時配信

はじめる前に

コンテンツフィルタの条件を作成する概念を理解します。[コンテンツフィルタの仕組み](#)を参照してください。

手順

- ステップ1 [メールポリシー (Mail Policies)] > [発信コンテンツフィルタ (Outgoing Content Filters)] に移動します。
- ステップ2 [フィルタ (Filters)] セクションで、[フィルタを追加 (Add Filter)] をクリックします。
- ステップ3 [条件 (Conditions)] セクションで、[条件を追加 (Add Condition)] をクリックします。
- ステップ4 署名、暗号化、または署名と暗号化を行うメッセージをフィルタリングする条件を追加します。たとえば、機密資料を暗号化するために、件名または本文に特定の単語またはフレーズ（「Confidential」など）を含むメッセージを識別する条件を追加できます。
- ステップ5 [OK] をクリックします。
- ステップ6 [アクション (Actions)] セクションで、[アクションを追加 (Add Action)] をクリックします。
- ステップ7 [アクションを追加 (Add Action)] リストから [S/MIME 署名/暗号化 (最終アクション) (S/MIME Sign/Encrypt (Final Action))] を選択します。
- ステップ8 コンテンツフィルタに関連付ける送信プロファイルを選択します。
- ステップ9 [OK] をクリックします。
- ステップ10 変更を送信し、保存します。

次のタスク

コンテンツ フィルタを追加したら、フィルタを発信メール ポリシーに追加する必要があります。組織のニーズに応じて、デフォルトポリシーでコンテンツフィルタをイネーブルにする、またはフィルタを特定のメール ポリシーに適用することを選択します。メール ポリシーの操作については、[メール ポリシーの概要](#)を参照してください。

コンテンツフィルタを使用した配信時のメッセージの署名、暗号化、または署名と暗号化

配信時にメッセージを署名、暗号化、または署名および暗号化するコンテンツフィルタを作成します。すなわち、メッセージは次の処理段階に進み、すべての処理が完了したら、メッセージは署名、暗号化、または署名および暗号化されて配信されます。

はじめる前に

- コンテンツ フィルタの条件を作成する概念を理解します。[コンテンツ フィルタの概要](#)を参照してください。

手順

- ステップ 1** [メールポリシー (Mail Policies)]>[発信コンテンツフィルタ (Outgoing Content Filters)] に移動します。
- ステップ 2** [フィルタ (Filters)] セクションで、[フィルタを追加 (Add Filter)] をクリックします。
- ステップ 3** [条件 (Conditions)] セクションで、[条件を追加 (Add Condition)] をクリックします。
- ステップ 4** 署名、暗号化、または署名と暗号化を行うメッセージをフィルタリングする条件を追加します。たとえば、機密資料を暗号化するために、件名または本文に特定の単語またはフレーズ（「Confidential」など）を含むメッセージを識別する条件を追加できます。
- ステップ 5** [OK] をクリックします。
- ステップ 6** [アクション (Actions)] セクションで、[アクションを追加 (Add Action)] をクリックします。
- ステップ 7** [アクションを追加 (Add Action)] リストから [S/MIME 署名/配信時に暗号化 (S/MIME Sign/Encrypt on Delivery)] を選択します。
- ステップ 8** コンテンツ フィルタに関連付ける送信プロファイルを選択します。
- ステップ 9** [OK] をクリックします。
- ステップ 10** 変更を送信し、保存します。

次のタスク

コンテンツ フィルタを追加したら、フィルタを発信メール ポリシーに追加する必要があります。組織のニーズに応じて、デフォルトポリシーでコンテンツフィルタをイネーブルにする、またはフィルタを特定のメール ポリシーに適用することを選択します。メール ポリシーの操作については、[メール ポリシーの概要](#)を参照してください。

S/MIMEを使用した着信メッセージの検証、復号、または復号と検証

- [電子メールゲートウェイでの S/MIME 検証および復号ワークフロー \(18 ページ\)](#)
- [S/MIME を使用して着信メッセージの検証、復号、または復号と検証を行う方法 \(19 ページ\)](#)
- [メッセージを復号するための証明書の設定 \(20 ページ\)](#)
- [署名されたメッセージを検証するための公開キーの設定 \(21 ページ\)](#)
- [S/MIME 復号および検証のイネーブル化 \(23 ページ\)](#)
- [S/MIME 暗号化済みまたは検証済みメッセージ用のアクションの設定 \(24 ページ\)](#)



(注) 電子メールゲートウェイの S/MIME セキュリティサービスを使用して、発信および着信メッセージの検証、復号、または復号と検証を行うことができます。

電子メールゲートウェイでの S/MIME 検証および復号ワークフロー

- [S/MIME 検証ワークフロー \(18 ページ\)](#)
- [S/MIME 復号ワークフロー \(18 ページ\)](#)

S/MIME 検証ワークフロー

次のプロセスでは、電子メールゲートウェイで S/MIME 検証を実行する方法について説明します。

1. 署名されたメッセージにハッシュ アルゴリズムを適用して、メッセージ ダイジェストを作成します。
2. 送信者の S/MIME 証明書の公開キーを使用し、署名されたメッセージに添付された PKCS7 署名を復号してメッセージ ダイジェストを取得します。
3. 生成されたメッセージ ダイジェストを、署名されたメッセージから取得したメッセージ ダイジェストと比較します。メッセージ ダイジェストが一致した場合、メッセージは検証されます。
4. 認証局で送信者ドメインの S/MIME 証明書を検証します。

S/MIME 復号ワークフロー

次のプロセスでは、電子メールゲートウェイで S/MIME 復号を実行する方法について説明します。

1. 電子メールゲートウェイの S/MIME 証明書の秘密キーを使用して、セッションキーを復号します。
2. セッション キーを使用してメッセージ本文を復号します。

S/MIME を使用して着信メッセージの検証、復号、または復号と検証を行う方法

手順	操作内容	詳細
ステップ 1	S/MIME 証明書の要件を把握します。	S/MIME 証明書の要件 (24 ページ) を参照してください。
ステップ 2	要件に応じて、次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • S/MIME 復号の場合、組織の S/MIME 証明書（復号の実行に必要な秘密キーを含む）を電子メールゲートウェイに追加します。 • S/MIME 検証の場合、検証の実行に必要な送信者の S/MIME 証明書の公開キーを電子メールゲートウェイに追加します。 • S/MIME 復号および検証の場合、以下を電子メールゲートウェイに追加します。 <ul style="list-style-type: none"> • 組織の S/MIME 証明書（復号の実行に必要な秘密キーを含む）を電子メールゲートウェイに追加します。 • 送信者ドメインの認証局。 • 検証の実行に必要な送信者 S/MIME 証明書の公開キー。 	参照先 <ul style="list-style-type: none"> • メッセージを復号するための証明書の設定 (20 ページ) • 署名されたメッセージを検証するための公開キーの設定 (21 ページ) • カスタム認証局リストのインポート
ステップ 3	S/MIME を使用して着信メッセージの検証、復号、または復号と検証を行うメールフローポリシーを設定します。	S/MIME 復号および検証のイネーブル化 (23 ページ) を参照してください。
ステップ 4	（任意）電子メールゲートウェイが復号済みまたは検証済みのメッセージに対して実行するアクションを定義します。	S/MIME 暗号化済みまたは検証済みメッセージ用のアクションの設定 (24 ページ) を参照してください。



（注） CLI を使用して S/MIME 検証、復号、または復号と検証を実行する場合は、**listenerconfig > hostaccess** コマンドを使用します。詳細については、CLI インラインヘルプを参照してください。

メッセージを復号するための証明書の設定

組織の S/MIME 証明書（復号の実行に必要な秘密キーを含む）を電子メールゲートウェイに追加する必要があります。

はじめる前に

- 次のいずれかの方法で、電子メールゲートウェイの S/MIME 証明書の公開キーを送信者（ビジネスまたはコンシューマ）と共有します。
 - 電子メールなどの電子チャネルを使用して、公開キーを送信します。
 - キー収集を使用して公開キーを取得するように、送信者に要求します。

送信者はこの公開キーを使用して、暗号化されたメッセージを電子メールゲートウェイに送信できます。



注 B2C のシナリオでは、組織の S/MIME 証明書がドメイン証明書の場合、一部の電子メールクライアント（Microsoft Outlook など）は組織の S/MIME 証明書の公開キーを使用して暗号化済みメッセージを送信できないことがあります。これは、これらの電子メールクライアントがドメイン証明書の公開キーを使用した暗号化をサポートしていないためです。

- インポートする S/MIME 証明書が、[S/MIME 証明書の要件（24 ページ）](#)に記載されている要件を満たしていることを確認します。

手順

- ステップ 1** [ネットワーク (Network)] > [証明書 (Certificates)] をクリックします。
- ステップ 2** [証明書の追加 (Add Certificate)] をクリックします。
- ステップ 3** [証明書のインポート (Import Certificate)] を選択します。
- ステップ 4** ネットワーク上またはローカル マシンの証明書ファイルへのパスを入力します。
- ステップ 5** ファイルのパスフレーズを入力します。
- ステップ 6** [次へ (Next)] をクリックして証明書の情報を表示します。
- ステップ 7** 証明書の名前を入力します。
- ステップ 8** 変更を送信し、保存します。

次のタスク



(注) CLI を使用して S/MIME 証明書を追加するには、`certconfig` コマンドを使用します。

署名されたメッセージを検証するための公開キーの設定

署名されたメッセージを検証するには、送信者の S/MIME 証明書の公開キーを電子メールゲートウェイに追加する必要があります。組織のポリシーおよびプロセスに応じて、次のいずれかの方法を使用して公開キーを電子メールゲートウェイに追加できます。

- 送信者に、電子メールなどの電子チャネルを使用して公開キーを送信するよう要求します。その後、Web インターフェイスまたは CLI を使用して公開キーを追加できます。
公開キーを追加する手順については、[S/MIME 暗号化用の公開キーの追加 \(11 ページ\)](#) を参照してください。
- キー収集を使用して公開キーを取得します。[公開キーの収集 \(12 ページ\)](#) を参照してください。

S/MIME 検証用の公開キーの追加

はじめる前に

- 公開キーが [S/MIME 証明書の要件 \(24 ページ\)](#) に説明されている要件を満たしていることを確認します。
- 公開キーが PEM 形式であることを確認します。

手順

- ステップ 1** [メール ポリシー (Mail Policies)] > [公開キー (Public Keys)] をクリックします。
- ステップ 2** [公開キーを追加 (Add Public Key)] をクリックします。
- ステップ 3** 公開キーの名前を入力します。
- ステップ 4** 公開キーを入力します。
- ステップ 5** 変更を送信し、保存します。

次のタスク



(注) CLI を使用して公開キーを追加するには、`smimeconfig` コマンドを使用します。

S/MIME 検証用の公開キーの収集

公開キーを着信 S/MIME 署名済みメッセージから取得（収集）し、これを使用して収集したキーの所有者（ビジネスまたはコンシューマ）からの署名済みメッセージを検証するように、電子メールゲートウェイを設定できます。



(注) デフォルトでは、期限切れまたは自己署名 S/MIME 証明書の公開キーは収集されません。

1. Web インターフェイスまたは CLI を使用して、公開キーの収集をイネーブルにします。 [公開キーの収集のイネーブル化 \(22 ページ\)](#) を参照してください。
2. 送信者に、署名されたメッセージを送信するよう要求します。
3. 収集が完了したら、収集した公開キーを電子メールゲートウェイに追加します。 [S/MIME 検証用の収集された公開キーの追加 \(23 ページ\)](#) を参照してください。

この手順により、メッセージは確実にゲートウェイ レベルで検証されます。

公開キーの収集のイネーブル化

手順

ステップ 1 [メール ポリシー (Mail Policies)] > [メール フロー ポリシー (Mail Flow Policies)] をクリックします。

ステップ 2 新しいメール フロー ポリシーを作成するか、既存のポリシーを変更します。

ステップ 3 [セキュリティサービス (Security Features)] セクションまでスクロールします。

ステップ 4 [S/MIME 公開キーの収集 (S/MIME Public Key Harvesting)] で以下を実行します。

- S/MIME 公開キーの収集をイネーブルにします。
- (任意) 署名された着信メッセージの検証に失敗した場合、公開キーを収集するかどうかを選択します。
- (任意) 更新された公開キーを収集するかどうかを選択します。

(注) 48 時間以内に同じドメインまたはメッセージから複数の更新された公開キーを受信すると、電子メールゲートウェイは警告アラートを送信します。

ステップ 5 変更を送信し、保存します。

次のタスク



(注) 電子メールゲートウェイ上の、収集された公開キーのリポジトリのサイズは **512 MB** です。リポジトリが一杯になると、電子メールゲートウェイにより未使用の公開キーが自動的に削除されます。

CLI を使用してキーの収集をイネーブルにするには、**listenerconfig** コマンドを使用します。

S/MIME 検証用の収集された公開キーの追加

手順

- ステップ 1 [メール ポリシー (Mail Policies)] > [収集済み公開キー (Harvested Public Keys)] をクリックします。
- ステップ 2 目的の収集された公開キーをクリックして、公開キーをコピーします。
- ステップ 3 公開キーを電子メールゲートウェイに追加します。 [S/MIME 検証用の公開キーの追加 \(21 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 4 変更を送信し、保存します。

S/MIME 復号および検証のイネーブル化

手順

- ステップ 1 [メール ポリシー (Mail Policies)] > [メールフロー ポリシー (Mail Flow Policies)] をクリックします。
- ステップ 2 新しいメールフロー ポリシーを作成するか、既存のポリシーを変更します。
- ステップ 3 [セキュリティサービス (Security Features)] セクションまでスクロールします。
- ステップ 4 [S/MIME の復号/検証 (S/MIME Decryption/Verification)] で以下を行います。
 - S/MIME 復号および検証をイネーブル化します。
 - S/MIME の検証後、デジタル署名を維持するかメッセージから削除するかを選択します。エンドユーザーに S/MIME ゲートウェイ検証について知られたくない場合は、[削除 (Remove)] を選択します。

トリプル ラップされたメッセージの場合、内部署名のみが維持または削除されます。
- ステップ 5 変更を送信し、保存します。

次のタスク



ヒント S/MIME 復号および検証がメールフロー ポリシーでイネーブルになっている場合、すべての S/MIME メッセージは、復号および検証ステータスに関係なく配信されます。S/MIME 暗号化済みまたは検証済みメッセージを処理するアクションを設定する場合は、メッセージフィルタ ルール `smime-gateway-verified` および `smime-gateway` を使用できます。詳細については、[S/MIME 暗号化済みまたは検証済みメッセージ用のアクションの設定 \(24 ページ\)](#) を参照してください。

S/MIME 暗号化済みまたは検証済みメッセージ用のアクションの設定

電子メールゲートウェイで S/MIME 復号、検証、またはその両方を実行した後、結果に応じて異なるアクションを行うことができます。メッセージフィルタ ルール `smime-gateway-verified` および `smime-gateway` を使用して、復号、検証、またはその両方の結果に基づいてメッセージに対してアクションを実行できます。詳細については、[メッセージフィルタを使用した電子メール ポリシーの適用](#) を参照してください。



(注) また、復号または検証、あるいはその両方の結果に基づいたアクションをメッセージで実行するには、コンテンツ フィルタ条件の [S/MIME ゲートウェイ メッセージ (S/MIME Gateway Message)] および [S/MIME ゲートウェイ検証済み (S/MIME Gateway Verified)] も使用できます。詳細については、[コンテンツ フィルタ](#) を参照してください。

例：検証、検証、復号、またはその両方に失敗した S/MIME メッセージの隔離

次のメッセージフィルタでは、メッセージが S/MIME メッセージであるかどうかを確認し、S/MIME を使用した検証または復号に失敗した場合は隔離します。

```
quarantine_smime_messages:if (smime-gateway-message and not smime-gateway-verified)
{ quarantine("Policy"); }
```

S/MIME 証明書の要件

- [署名のための証明書の要件 \(24 ページ\)](#)
- [暗号化のための証明書の要件 \(25 ページ\)](#)

署名のための証明書の要件

署名を行うための S/MIME 証明書には、次の情報を含める必要があります。

Common Name	完全修飾ドメイン名
組織	組織の正確な正式名称。

Common Name	完全修飾ドメイン名
組織単位	組織の部署名。
市（地名）	組織の本拠地がある都市。
州/県	組織の本拠地がある州、郡、または地方。
国（Country）	組織の本拠地がある 2 文字の ISO 国名コード。
失効までの期間	証明書が期限切れになるまでの日数。
サブジェクトの別名（ドメイン） （Subject Alternative Name （Domains））	署名されたメッセージの送信元のドメイン名。たとえば、 domain.com や *.domain.net などです。複数エントリの場合、カンマ区切りリストを使用します。
サブジェクトの別名（Eメール） （Subject Alternative Name （Email））	署名されたメッセージを送信するユーザの電子メールアドレス（例： user@somedomain.com ）。複数エントリの場合、カンマ区切りリストを使用します。
秘密キー サイズ（Private Key Size）	CSR 用に生成する秘密キーのサイズ。
キーの使途（Key Usage）	<p>キーの使用状況は、証明書を何に使用できるかを決定する制約方式です。キーの使用状況の拡張が指定されている場合は、digitalSignature および nonRepudiation ビットが設定されている必要があります。</p> <p>キーの使用状況の拡張が指定されていない場合、受信側クライアントは、digitalSignature および nonRepudiation ビットが設定されていると推定する必要があります。</p>

S/MIME 証明書の詳細については、RFC 5750 : Secure/Multipurpose Internet Mail Extensions (S/MIME) Version 3.2 - Certificate Handling を参照してください。

暗号化のための証明書の要件

暗号化を行うための S/MIME 証明書には、次の情報を含める必要があります。

Common Name	完全修飾ドメイン名
組織	組織の正確な正式名称。
組織単位	組織の部署名。
市（地名）	組織の本拠地がある都市。
州/県	組織の本拠地がある州、郡、または地方。
国（Country）	組織の本拠地がある 2 文字の ISO 国名コード。

Common Name	完全修飾ドメイン名
失効までの期間	証明書が期限切れになるまでの日数。
サブジェクトの別名 (ドメイン) (Subject Alternative Name (Domains))	暗号化されたメッセージの送信先のドメイン名。たとえば、 <code>domain.com</code> や <code>*.domain.net</code> などです。複数エントリの場合、カンマ区切りリストを使用します。 暗号化されたメッセージをドメイン内のすべてのユーザーに送信する場合は、公開キーに SAN ドメインを含める必要があります。
サブジェクトの別名 (E メール) (Subject Alternative Name (Email))	暗号化されたメッセージを送信するユーザーの電子メールアドレス (例: <code>user@somedomain.com</code>)。複数エントリの場合、カンマ区切りリストを使用します。
秘密キー サイズ (Private Key Size)	CSR 用に生成する秘密キーのサイズ。
キーの使途 (Key Usage)	キーの使用状況は、証明書を何に使用できるかを決定する制約方式です。キーの使用状況の拡張が指定され、 <code>keyEncipherment</code> ビットが設定されている必要があります。

S/MIME 証明書の詳細については、RFC 5750 : Secure/Multipurpose Internet Mail Extensions (S/MIME) Version 3.2 - Certificate Handling を参照してください。

公開キーの管理

電子メールゲートウェイでは次が必要です。

- 発信メッセージを暗号化するための、受信者の S/MIME 暗号化証明書の公開キー。
- 署名済み着信メッセージを検証するための、送信者の S/MIME 署名証明書の公開キー。

次のいずれかの方法で、公開キーを電子メールゲートウェイに追加できます。

- 目的の PEM 形式の公開キーがある場合は、Web インターフェイスまたは CLI を使用して追加できます。[公開キーの追加 \(27 ページ\)](#) を参照してください。
- 目的の公開キーが含まれたエクスポートファイルがある場合は、そのエクスポートファイルを `/configuration` ディレクトリにコピーし、Web インターフェイスまたは CLI を使用してインポートできます。[既存のエクスポート ファイルからの公開キーのインポート \(27 ページ\)](#) を参照してください。

電子メールゲートウェイでは、キーの収集もサポートしています (署名済み着信メッセージから自動的に公開キーを取得)。詳細については、[S/MIME 収集済み公開キー \(11 ページ\)](#) を参照してください。

公開キーの追加

はじめる前に

- 公開キーが [S/MIME 証明書の要件 \(24 ページ\)](#) に説明されている要件を満たしていることを確認します。
- 公開キーが PEM 形式であることを確認します。

手順

-
- ステップ 1** [メール ポリシー (Mail Policies)]>[公開キー (Public Keys)]をクリックします。
 - ステップ 2** [公開キーを追加 (Add Public Key)]をクリックします。
 - ステップ 3** 公開キーの名前を入力します。
 - ステップ 4** 公開キーを入力します。
 - ステップ 5** 変更を送信し、保存します。
-

次のタスク



- (注) CLI を使用して公開キーを追加するには、`smimeconfig` コマンドを使用します。
-

既存のエクスポート ファイルからの公開キーのインポート

はじめる前に

エクスポートファイルを電子メールゲートウェイの /configuration ディレクトリにコピーします。エクスポート ファイルを作成する手順については、[公開キーのエクスポート \(28 ページ\)](#) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [メール ポリシー (Mail Policies)]>[公開キー (Public Keys)]をクリックします。
 - ステップ 2** [公開キーをインポート (Import Public Keys)]をクリックします。
 - ステップ 3** エクスポート ファイルを選択して [送信 (Submit)]をクリックします。

- (注) 多数の公開キーを持つファイルをインポートする場合、インポートプロセスに時間がかかることがあります。Web インターフェイスまたは CLI 無活動タイムアウトを適宜調整してください。

- ステップ 4** 変更を保存します。
-

公開キーのエクスポート

電子メールゲートウェイのすべての公開キーは、1つのテキストファイルにまとめてエクスポートされ、/configuration ディレクトリに保存されます。

手順

- ステップ1 [メール ポリシー (Mail Policies)] > [公開キー (Public Keys)] を選択します。
 - ステップ2 [公開キーをエクスポート (Export Public Keys)] をクリックします。
 - ステップ3 ファイルの名前を入力し、[送信 (Submit)] をクリックします。
-